

2024

任期満了したアート・コミュニケーターの声

建築実践講座で前川建築のおもしろさや出会い、建築ツアーに参加して、多くの学びや体験ができたことが現在の活動につながっています。例えば、建物の特徴などをただ解説するのではなく、参加者とコミュニケーションを取りながら、各々の視点で建物を見て、味わい、楽しんでもらうツアーにすること。決められた台本やセリフはなく、



今井和江さん

ガイドによるオリジナルの個性溢れるツアーを創ること。そして何よりも、参加者の皆さんと共に楽しむこと等が、今の活動の基本となっています。

こどもからお年寄りまで、美術館では誰もが心が自由になれる。多様な仲間と一緒に素敵な場をカタチにしていきながら、相手の



安東 豊さん

ことをわかろうと願ったり、自分自身の大切な想いに気づいたり、普段出会えないつながりを感じたり。そんな魅力がとびらの活動には満ち溢れています。

アートに関する知識も経験もない私が、あるきっかけで「若者とアートをつなぐ活動」をしたいと考えていた時に、美術雑誌でとびら募集を知りました。密度の濃い講座での学びと「あいうえの」や「とびらボ」での実践があったからこそ Flatart の活動を立ち上げることができました。何よりも、多様なバックグラウンドであり



水上みささん

ながらもアートと人をつなぐという同じ志を持つ仲間に出会えなければ活動は生まれませんでした。あの時、思い切って応募して良かったと思います。

とびらプロジェクトの魅力は、寄り添ってくれる誰かと出会えることです。自分の存在や思考に居場所を与えてくれる場所です。



金城明日美さん

私にとってとびらは、アートやコミュニケーションを通じて、時に悩み迷いながらも、学びを育むスタート地点となりました。

関連書籍



「美術館と大学と市民がつくるソーシャルデザインプロジェクト」

青幻社 2018 年
とびらプロジェクト 編
1,760 円



「こどもと大人のためのミュージアム思考」

左右社 2022 年
稲庭彩和子 編著、他
1,980 円



とびらプロジェクト
<https://tobira-project.info/>



Museum Start あいうえの
<https://museum-start.jp/>



Creative Aging ずっとび
<https://www.zuttobi.com/>



オープン・レクチャー

不定期開催・1年に1～2回 記録映像公開中！
とびらプロジェクトの活動から生まれたテーマについて、参加者のみなさんと一緒に考えます。

「とびらプロジェクト」フォーラム

毎年1～2月に開催
社会のなかでの美術館の役割や、アート・コミュニケーターの働き、これからのコミュニティについて発信しています。とびらによる活動紹介もあります。



これからの新しい
コミュニティをひらこう



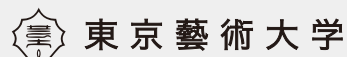
東京都美術館 × 東京藝術大学
とびらプロジェクト

お問合せ先

東京都美術館 アート・コミュニケーション事業担当

〒110-0007 東京都台東区上野公園 8-36

Tel：03-3823-6921（代） メール：q-tobira@tobira-project.info



©2024 Tokyo Metropolitan Art Museum

「とびらプロジェクト」とは？

アートを紹介してコミュニティを育む ソーシャルデザインプロジェクト

とびらプロジェクトは、東京都美術館と東京藝術大学と市民が連携し、アートを紹介してコミュニティを育むソーシャルデザインプロジェクトです。プロジェクトに主体的に関わる市民をアート・コミュニケーター（愛称＝とびラー）と呼びます。多種多様な関心を持ったとびラーと、東京都美術館の学芸員、東京藝術大学の教員からなるプロジェクトスタッフで1つのチームをつくり活動しています。人と作品、人と場所、人と人をつなぐアート・コミュニケーションのつなぎ手として、「学び」と「実践」を繰り返しながら活動しています。とびラーの任期は3年。その後は、経験やネットワークを活かして社会で活動していくことを目指しています。

東京都美術館の 使命（ミッション）

東京都美術館は、展覧会を鑑賞する、子供たちが訪れる、芸術家の卵が初めて出品する、障害のある方が何のためらいもなく来館できる、すべての人に開かれた「アートへの入口」となることを目指します。新しい価値観に触れ、自己を見つめ、世界との絆が深まる「創造と共生の場＝アート・コミュニティ」を築き、「生きる糧としてのアート」と出会う場とします。そして、人びとの「心のゆたかさの拠り所」となることを目指して活動していきます。

毎年18歳以上から
40名程度
募集

「とびラー」とは、
東京都美術館の略称
とび「都美」と「新しい扉を開く」
の意味が含まれた愛称

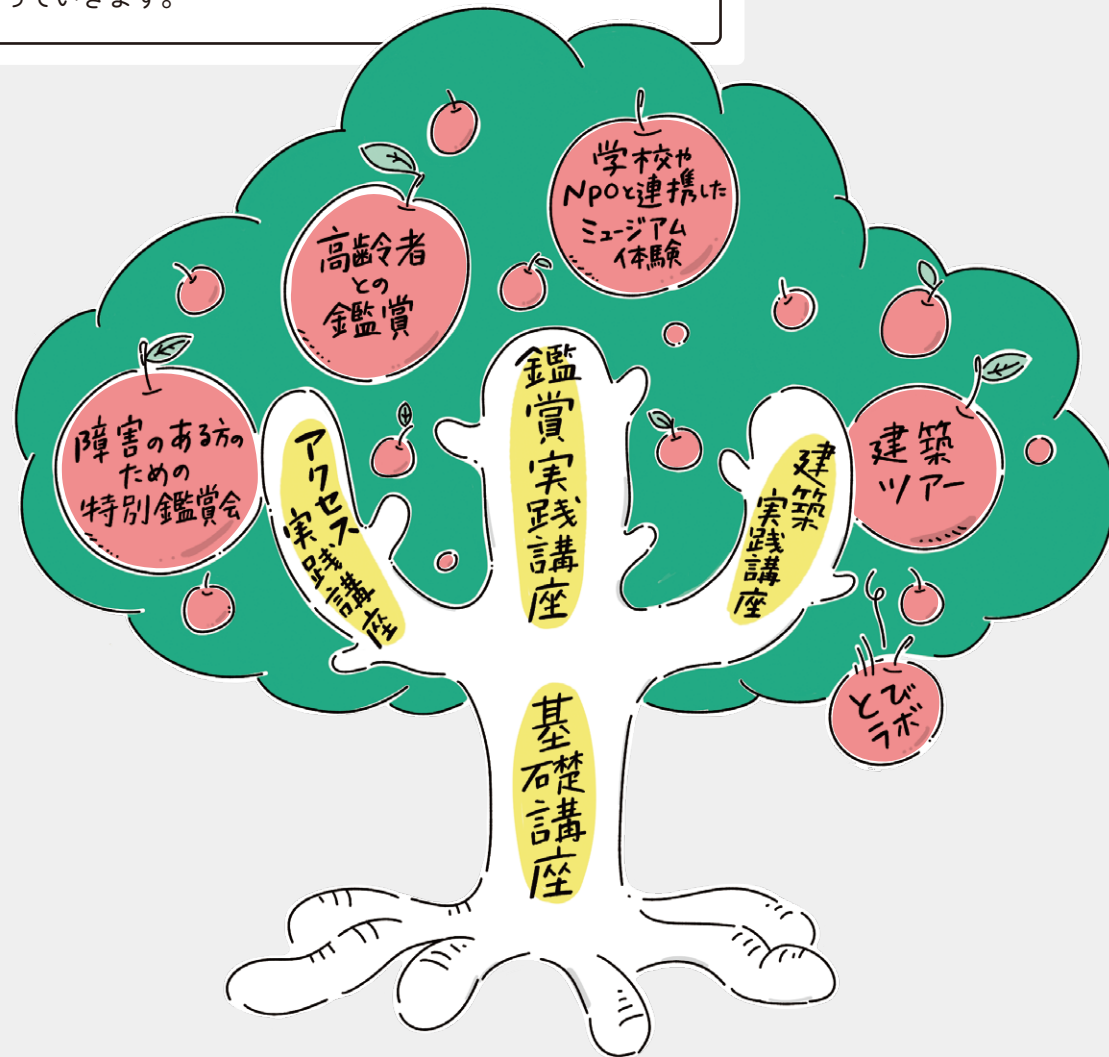
東京藝術大学からの メッセージ

アートはあらゆる境界を越えて、人にとって根源的な力を湧き立たせ、世界との繋がりを生み出します。東京藝術大学は、人の中にある創造性の探求を研究活動の根底に置き、多様性を魅力とするアートの役割を創造します。人と作品、人と人、人と場をつなぐアート・コミュニケーターと共にコミュニティを築き、様々な分野、状況にある人との共創に取り組むことで、「アートは生きる力」であることをすべての人に届けます。



とびラーの学びと実践

とびラーは「基礎講座」「実践講座」「とびラボ」を通して、東京都美術館のミッションと東京藝術大学からのメッセージを共有し、とびラーとしての役割の理解を深めていきます。学ぶことと現場で実践することのサイクルがあることで、美術館を拠点とした活動がさらに充実したものになっていきます。



鑑賞

学ぶ 鑑賞実践講座

対話を通して作品を楽しみ、鑑賞を深める活動について学びます。自由な発想で、主体的に鑑賞できる機会をつくるにはどうしたらよいか、「鑑賞の場を作る側」の視点を持ちながら考えていきます。

実践する スペシャル・マンデー

museum start
あいうえの
since 2013

展覧会休室日に、学校の授業と連動してこどもたちと学びあう

実践する ずっとび鑑賞会

Creative Ageing
ずっとび

認知症が気になる方や、そのご家族と美術館を楽しむ



ずっとび鑑賞会（撮影：中島佑輔）



とびラーの 声

野口真弓さん

誰かと一緒にみることが、こんなにも楽しいということ、私はとびラーになってはじめて知りました。ひとりひとりの言葉を丁寧に「きく」ことで、もっともっと深くみることができる。いろんな人と出会って、一緒に体験できたことが、とてもうれしいです。

アクセス

学ぶ アクセス実践講座

美術館にある作品や文化財を活かし、多様な人々が芸術や文化財につながることでできる新たな回路をつくる活動と、その意義について考えます。

実践する 障害のある方のための特別鑑賞会

東京都美術館 × 東京藝術大学
とびらプロジェクト

特別展の休室日を利用し、普段は来館しにくい方をとびラーがサポート

実践する みるラボ

museum start
あいうえの
since 2017

ろう者、難聴者、聴者のティーンズと一緒に作品をみて考えるプログラム



みるラボ：わからないのはじまり（撮影：中島古英）



とびラーの 声

渡邊佳子さん

アクセス実践講座を受けて様々な問題について知る機会になりました。先入観で正しく理解できていないことに気づかされました。こちらの思い込みで鑑賞の場を作るのではなく、作り上げるときに当事者の方の声をもっときいて、一緒に考えていく機会を持ちたいと考えます。

基礎講座

学ぶ 基礎講座

新しいコミュニティづくりの基本を学ぶ講座です。1年目のとびラーは全員必ず参加します。美術館での活動とはどのようなものか？対話やクリエイティブなコミュニケーションが起こる場づくりとは？など、とびラーの活動を支える基礎的な物事考え方を参加形式で学んでいきます。



「きく力」を身につける



ミュージアムとウェルビーイング



よい会議のすすめ方とは？

建築

学ぶ 建築実践講座

前川國男が設計した東京都美術館の建築への関心を軸に、より広い視野で建築の魅力、建築と人々の関わりについて考え、建築空間があるからこそ生まれる活動を作っていきます。

実践する とびラーによる建築ツアー

東京都美術館 × 東京藝術大学
とびらプロジェクト

前川建築のみどころを、多彩なオリジナルツアーで紹介

実践する ズームイン！ミュージアム

museum start
あいうえの
since 2013

美術館ならではのたてものの魅力を発見するプログラム



とびラーによる建築ツアー



とびラーの 声

大野みどりさん

建築の専門家ではないとびラーが建築ガイドをする時に大切なこと、それは知識を伝えることではありませんでした。参加者が感じたことを言葉にもらい、チームの中で対話と一体感が生まれるように場をデザインすることだったのです。ぱっと笑顔の輪が広がる瞬間が愛おしいです。

「とびラボ」とは？

とびラーが自発的に開催するミーティングで、新しいプロジェクトの検討と発信が行われる場です。様々なバックグラウンドや関心を持ったとびラーと運営チームが協働しオリジナルの活動が生まれます。

活動のしくみ



「野外彫刻を楽しむ」

「行き交う人とのコミュニケーション」



「エスプラナードで会いましょう」

東京都美術館のエントランスにつながる散歩道「エスプラナード」で、とびラーと来館者のコミュニケーションを生む活動。様々な目的をもって美術館に訪れる人たちと、記念写真を撮ったり、おすすめスポットをめぐったりしました。



「五感で楽しむ朝の都美さんぽ」

「表現技法に触れる」



「はじまり展の精霊（キャラクター）ケエジンたちをプレス機で刷ってみよう！」

「うえののそこから「はじまり、はじまり」荒木珠奈展」（2023年）の出品作品に使われた凹版画の技法を、こどもたちに体験してもらうワークショップです。展覧会キャラクターの「ケエジン」をプレス機で刷り、版画の仕組みや版表現の魅力を伝えました。



「誰かとおしゃべりミュージアム」

作品もメンバーも、一期一会の鑑賞会。

「日々忙しい大人世代を対象に」



「大人の OFF ～アート・建築を介して、いつもと違う体験や交流を～」

日々忙しい大人世代を対象に、アートや建築の鑑賞を通じてリフレッシュする2日間。

「きこえない仲間と協働するために」



「きこえてなんだろう？」

ろう者、難聴者と聴者が生活文化の違いについて学びあうミーティングです。ともに活動するための手立てを多様な仲間と考えていきます。

さまざまな人が活動するために・・・

【とびラー専用掲示板】

専用 WEB サイト・メーリングリストで情報共有

とびラーの掲示板では、日々とびラボやプログラムに関する情報が掲載され、全員がいつでも参加できるオンライン上のコミュニケーションの場が形成されています。メーリングリストと連動し、多様な活動を全員で共有します。



【アートスタディールーム】

東京都美術館にあるとびラーの活動拠点

アートスタディールームは、とびラボのミーティングの場としてとびラーが利用できる空間です。講座やプログラム等の会場にもなります。



「みえない人とみえる人が一緒に楽しむアート鑑賞『みんなでみる美術館』」

視覚に障害のある方、晴眼者、とびラーと一緒に作品を鑑賞し、新たな発見をシェア。

これからゼミ



任期満了後の活動を検討するしくみです。3年間の活動で生まれた関心を今後も展開していくために、方法やチームづくりを検討していきます。

3つのプロジェクトが連動し、 とびラーの実践の場が広がっています

さまざまな分野*の人々が領域をこえて連携し、
社会課題に取り組んでいます。

※文化施設、NPO、行政、大学、医療・福祉機関など

東京都美術館と東京藝術大学と市民とが連携する「とびらプロジェクト」
が育むコミュニティを基盤に、2013年には上野の9つの文化施設が連携し
てこどもたちのミュージアムデビューを応援する「Museum Start あいうえ
の」が始まりました。こどもたちを支援するNPO等と連携してプログラム
を実施しています。2021年には、高齢者を対象とした「Creative Ageing
ずっとび」を立ち上げ、台東区の医療・福祉機関とも連携を始めました。
こうした取り組みを通じて、世代や領域を超えた共創の場が広がり、ア
ートを介したコミュニティが社会課題に向き合う力となりつつあります。

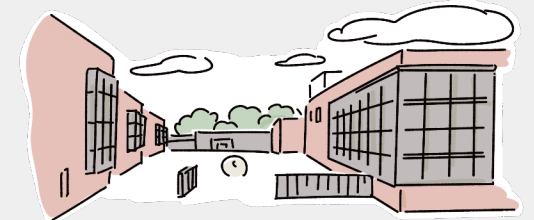


東京都美術館 × 東京藝術大学

とびらプロジェクト

とびらプロジェクトは、東京都美術館と東京藝術大学と市民が連携し、アートを介して
コミュニティを育むソーシャルデザインプロジェクトです。アート・コミュニケーターは
18歳以上の多世代で活動しています。

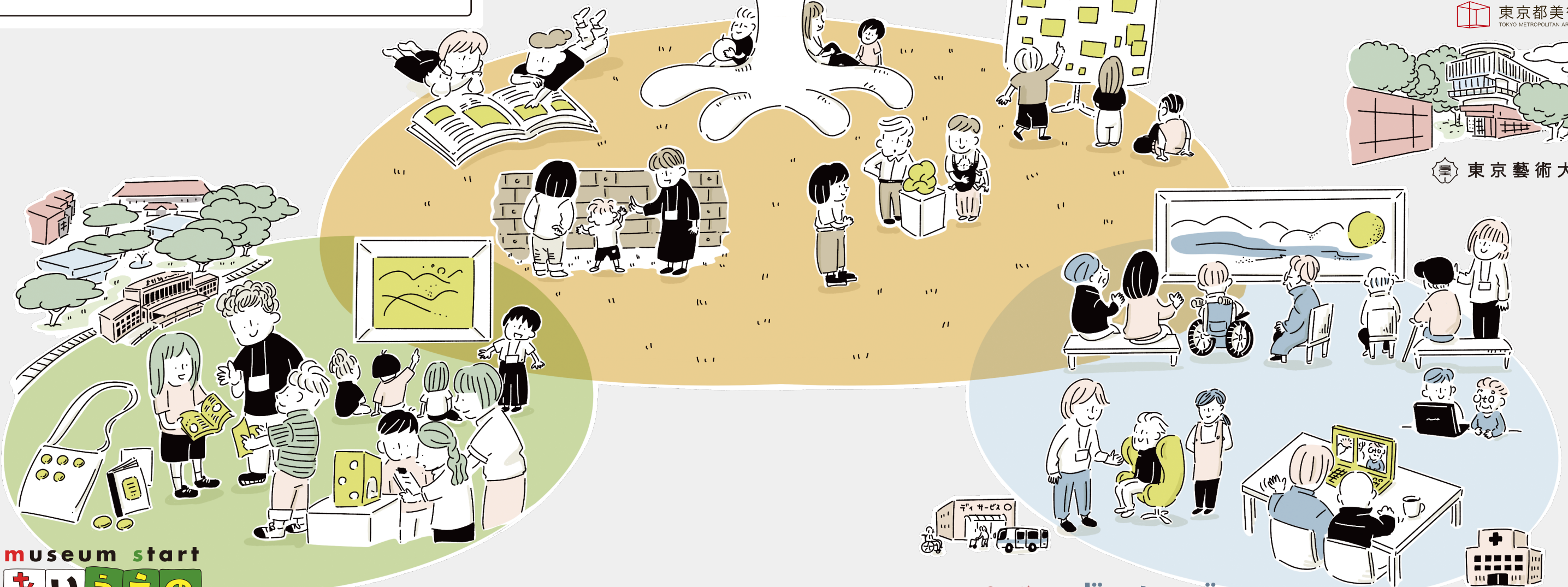
とびラーはすべてのプログラムにアート・コミュニケーターとして伴走します。



東京都美術館
TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM



東京藝術大学



museum start

あいうえの

since 2013

主催：
東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館、東京藝術大学

上野公園の9つの文化施設*が連携し、すべてのこどものミュージアムデビューを
応援する「ラーニング・デザイン・プロジェクト」。こどもと大人が文化やアートに
出会い、楽しみ、ともに学びあう環境を創造しています。

※上野の森美術館、恩賜上野動物園、国立科学博物館、国立国会図書館国際子ども図書館、国立西洋美術館、東京国立博物館、東京都美術館、
東京藝術大学、東京文化会館（五十音順）

Creative
Ageing

ずっとび

パートナーシッププロジェクト：
「共生社会」をつくるアートコミュニケーション共創拠点

老いや年齢に関わらず様々な年代の人々が創造的に作品と出会う機会を作るプロ
ジェクト。超高齢社会に対応し「歳を重ねること」をポジティブに捉え、だれもが
一人の人として尊重される社会を目指し、医療福祉機関とも連携し取り組んでいます。

任期満了後の活動

3年の任期を満了したとびらたちはそれぞれのコミュニティに戻ります。とびらプロジェクトでの3年間に会った人々とのネットワークや、活動や講座で習得したスキルを活かしながら様々な形で「対話」を大切にした活動を続けています。美術館を拠点に育まれた沢山の小さな種が、広く社会の中で芽を出し、多様な人々、価値観を結び続けます。



地域の美術館・作品・学校・市民をつなげる

あーちゅびー

「あーちゅびー」は、美術館の作品やパブリックアートに対話を通して鑑賞する活動を中心に行っています。おもに府中市の美術館や小学校等で、こどもや教育関係者、一般市民を対象に、作品鑑賞を通してお互いの考えに耳を傾け、誰もが互いを尊重し、心豊かなコミュニケーションの場を作ることを目指しています。



建築を見る楽しみを伝える

埼玉会館建築ツアー

「前川國男を知ろう！彩の国探検隊」のチームは、かつて東京都美術館で建築ツアーのガイドを務めていたとびらが中心となって発足しました。埼玉会館のスタッフと協力し、前川國男の建築の魅力を伝える建築ツアーを定期的に行っています。「お客様はもちろん、自分たちも楽しんで！」をモットーに、ツアーを作るアート・コミュニケータ自身が楽しんで活動を行うことで、参加者にその熱量が伝わる建築ツアーが魅力です。



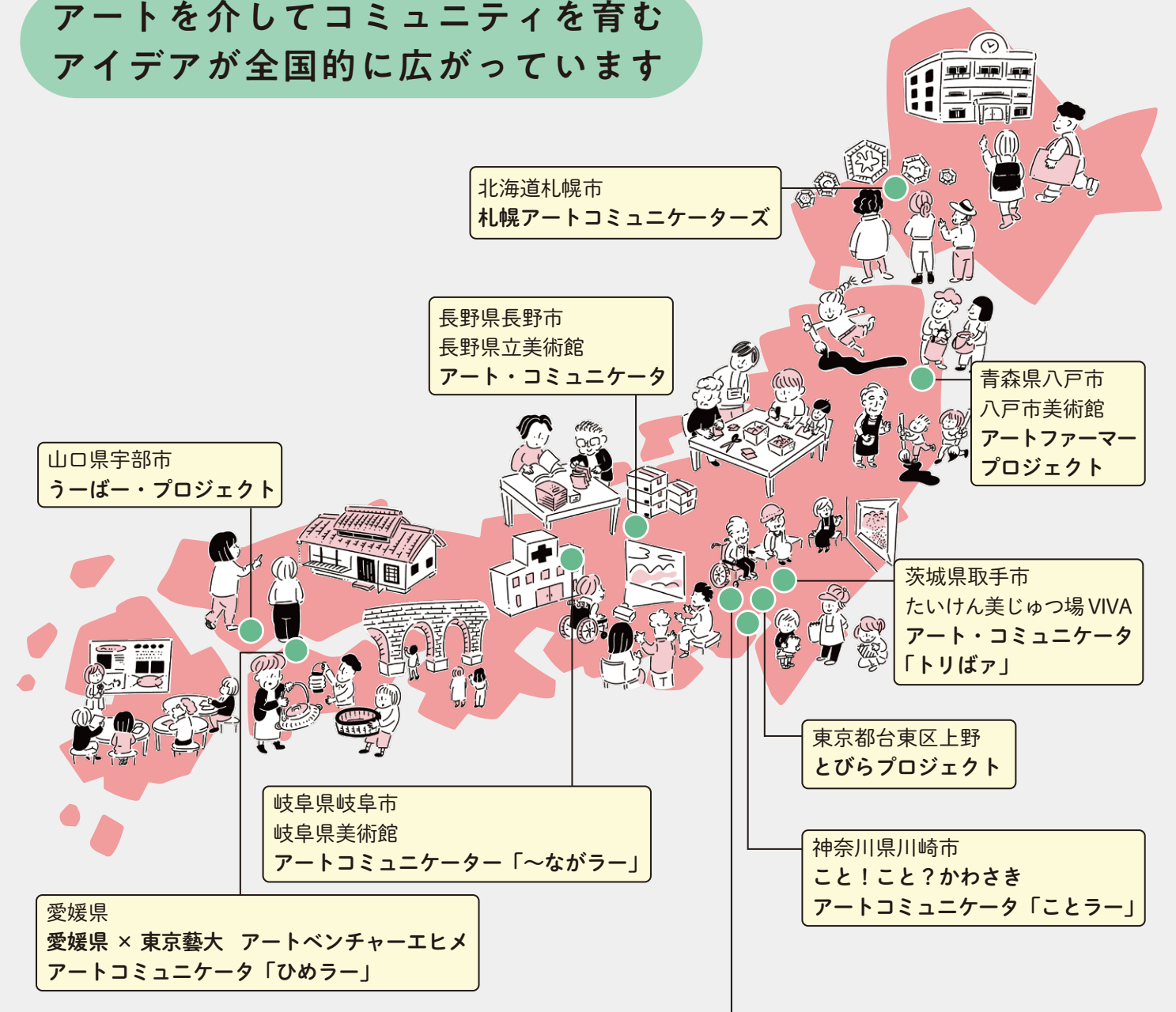
アートを介して、若者世代の社会的支援を

Flatart (フラタート)

「Flatart」は、社会から孤立しがちな若者に対して、アートを介して対話や創作を行う場をつくっています。同時代を生きるアーティストと一緒に活動するなかで、支援する／されるという関係を越え、「人と人」「人とアート」がフラットに出会う場が生まれています。若者が、多様な価値観に触れ、ありのままを受け入れられることで、新しい自分を発見し、社会に踏み出す力を得るきっかけとなるような活動を行っています。



アートを介してコミュニティを育む アイデアが全国的に広がっています



アート・コミュニケータ東京と 特定非営利活動法人アート・コミュニケーション推進機構（PARC）

「アート・コミュニケータ東京」は、3年の任期を満了したとびらたちによって結成された任意団体です。とびらプロジェクトで培った経験やネットワークを活かし、さまざまな場所や地域にて、新たな活動に取り組んでいます。

特定非営利活動法人アート・コミュニケーション推進機構（略称:PARC）は、アート・コミュニケータ東京の一部のメンバーからなるNPO法人です。任期満了後もアート・コミュニケータとしての活動を展開していくときの基盤として、ボランティア保険の加入手続きや、団体としての契約手続きなどの機能を担っています。

主な活動に、東京都美術館「障害のある方のための特別鑑賞会」「アート・コミュニケーション事業を体験する」、東京都庭園美術館「フラットデー」、浦安市・東京藝術大学「浦安藝大」、東京藝術大学「芸術未来研究場展」などがあり、文化施設や自治体などから依頼を受けて活動を行っています。また、2022年と2023年には、団体の活動を体験型で紹介する展覧会「アート・コミュニケータ東京フェス」を自主開催しました。



東京都美術館「アート・コミュニケーション事業を体験する 2024」会場ファシリテータ運営



東京都庭園美術館「フラットデー」の様子（撮影：井手大）